

2020年秋季以降の風邪診療について(保存版)

昨シーズンまでと違い、いわゆる風邪の診療が難しくなります。一般の医療機関ではインフルエンザの検査が実質的にできないためです。

発熱や咳などの症状があれば、以下を参考にしてください。

- 軽症のときには無理をせず休みましょう
- 受診を希望する場合には直接受診するのではなく、**まず医療機関に電話**をしましょう。一般の患者さんへの感染を防止するため、電話診療になることも多いと思います。
- 電話診療の際には以下の事項を伝えましょう

①一番ひどい症状は何か？

息苦しい場合は病院に連絡を(入院を考える)

②いつからの症状か？

③症状はどのように経過しているか？

④同居の家族に同じような症状の人がいるか？

⑤以下の症状の有無は？

寒気 発熱 咳 痰 のどの痛み 鼻水 鼻詰まり
関節痛 筋肉痛 胸痛 腹痛 嘔吐 吐き気 下痢

風邪症状を呈する病気には以下のようなものがあります。

- ①普通感冒、②咽頭炎、③インフルエンザ、④副鼻腔炎、
⑤気管支炎、⑥肺炎、⑦COVID-19

①普通感冒

いわゆる鼻かぜです。鼻水、鼻づまり、微熱、倦怠感(しんどい)などの症状があります。ウイルスが原因であり、治療は対症療法しかありません。

②咽頭炎

のどの炎症です。症状はのどの痛み、発熱、咳などです。大人の場合はウイルスが原因のことが多いようです。ウイルス性の場合、治療は対症療法になります。

③インフルエンザ

悪寒(寒気)、発熱、のどの痛み、咳、筋肉痛や関節痛などの症状があります。急激に症状が起こります。インフルエンザウイルスが原因です。感染力は強く、注意が必要です。診断は鼻に綿棒を差し込んで行いますが、飛沫感染の可能性があるため、2020年9月末時点では困難な検査です。治療は抗インフルエンザ薬(必須ではない)と対症療法です。

④副鼻腔炎

副鼻腔の炎症です。症状は鼻水や頭痛、頬の痛みなどです。細菌が原因であることが多いのですが、軽症の場合は抗菌薬は必須ではありません。

⑤気管支炎

気管支の炎症です。症状は発熱、痰を伴う咳などです。症状は肺炎と似ていますが、画像検査では肺炎像は認めません。中等症以上で抗菌薬を使うことがあります。

⑥肺炎

肺の炎症です。症状は発熱、痰を伴う咳などです。細菌が原因であることが多く、原因菌に対応した抗菌薬が使われます。軽症の肺炎はあまりなく、肺炎の時点で入院を考慮することになります。

⑦COVID-19

新型コロナウイルスが原因の感染症です。無症状のウイルス保有者もいれば、重症の肺炎になることもあります。重症化の要因は年齢と基礎疾患(がんや糖尿病)のようです。PCR検査で診断しますが、いわゆる風邪シーズンにこれまでと同様に検査ができるかどうかは分かりません。治療薬も認可されるようですが、100%治るようなものではなく、過度な期待はしない方がよいでしょう。

このうち重症化する病気は、③インフルエンザ、⑥肺炎、⑦COVID-19です。

また感染しやすい病気は、①普通感冒、③インフルエンザ、⑦COVID-19です。いずれも接触感染、飛沫感染で感染するため、衛生管理と不要な外出を減らすことが重要になります。